

学 位 論 文 審 査 要 旨      公開審査日 2018 年 10 月 24 日(水)

報告番号：甲・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">乙</span> 第    2150 号	氏名： 長谷川 温	
論文審査 担当者	主査    教授    齋藤 和博    印	副査    教授    長尾 俊孝    印
		副査    教授    塚原 清彰    印
<p><b>審査論文の題目：</b>Correlation between the malignancy and prognosis of oral squamous cell carcinoma in the maximum standardized uptake value          (口腔扁平上皮癌の SUVmax 値における予後と悪性度の相関)</p> <p><b>著 者：</b>On Hasegawa, Takafumi Satomi, Michihide Kono, Masato Watanabe, Naoki Ikehata, Daichi Chikazu</p> <p><b>掲載誌：</b>Odontology (in press, 2018)</p>		
<p><b>論文要旨：</b></p> <p>臓器の生理・生化学的性質を利用した「機能画像」のひとつである <sup>18</sup>F-FDG-PET/CT (以下 PET-CT) は口腔癌診療において、ステージングや再発・転移診断、治療効果判定など必須のモダリティである。本研究では、表在癌を除いた臨床腫瘍径が 1 センチ以上の初回治療例で、治療前に同一施設で PET-CT を撮影した口腔扁平上皮癌 52 例を対象とし、PET-CT 検査で得られる SUVmax 値と、口腔扁平上皮癌の進行度因子や生物学的特性および予後との関係を検討した。SUVmax 値と組織学的グレード、Ki-67 発現などの臨床病理学的因子、また進行度因子との関係を検討した。さらに予後との関連についても検討した。その結果、SUVmax の値は、T 分類やリンパ節転移、浸潤様式などの進行度因子に加えて、生物学的因子である Ki-67 とも有意な関連が示された。また、全生存率には関係性が認められなかったが、無病生存率とは有意な関係が示された。</p>		
<p><b>審査過程：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学的解析方法 (多変量解析の必要性、SUVmax の閾値の設定) に関する質問がなされたが、妥当な解答を得た。</li> <li>2. SUVmax の値に影響する因子に関する質問がなされたが、的確な解答を得た。</li> <li>3. 予防的頸部郭清などの治療戦略立案における PET-CT の意義に関する質問がなされたが、的確な解答を得た。</li> <li>4. 今後の臨床応用に関する質問に対して、的確な解答が得られた。</li> </ol>		
<p><b>価値判定：</b></p> <p>本研究は、PET で得られる SUVmax は腫瘍の進展度診断だけではなく、予後の推測にも有効であることを示した。これは、近年期待されている生命予後予測や治療効果予測からの個別化医療に PET が期待できる可能性を示したものであり、学位論文としての価値を認める。</p>		